

減量・中止基準

アベルマブ

副作用	程度	処置
間質性肺疾患	Grade2	Grade1以下に回復するまで本剤を休薬する。
	Grade3以上または再発性のGrade2	本剤を中止する。
大腸炎・下痢	Grade2-3	Grade1以下に回復するまで本剤を休薬する。
	Grade4または再発性のGrade3	本剤を中止する。
肝機能障害	AST/ALTが基準値の3~5倍または総ビリルビンが基準値上限の1.5~3倍に増加した場合	Grade1以下に回復するまで本剤を休薬する。
	AST/ALTが基準値の5倍超または総ビリルビンが基準値上限の3倍超に増加した場合	本剤を中止する。
甲状腺機能低下/亢進症、副腎機能不全、高血糖	G3以上	Grade1以下に回復するまで本剤を休薬する。
心筋炎	新たに発現した心徴候、臨床検査値または心電図による心筋炎の疑い	休薬または投与中止する。
腎障害	G2-3	Grade1以下に回復するまで本剤を休薬する。
	G4	本剤を中止する。
Infusion reaction	G1	投与速度を半分に減速する
	G2	投与を中断する。患者の状態が安定した場合(G1以下)、中断時の半分の投与速度で投与を再開する
	G3以上	本剤を中止する。
上記以外	G2-3	Grade1以下に回復するまで本剤を休薬する。
	G4または再発性のG3の副作用、副作用の処置としての副腎皮質ホルモン剤をプレドニゾン換算で10mg/日相当量以下まで12週間以内に減量できない場合、12週間を超える休薬後もG1以下まで回復しない場合	本剤を中止する。